

銀座街づくり会議

〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目6-1 銀座三和ビル3F

PHONE: 03-3567-1535 ● FAX: 03-3563-0236 ● <http://www.ginza-machidukuri.jp>

● このNEWS LETTERは、全銀座会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています
● 本誌の内容を、許可なく無断で複写・複製および転用・転載することを禁じます

松坂屋を含む「銀座6丁目計画」については、2003年以来さまざまな経過を経て、当初の超高層プランではなく、銀座ルールに基づいた新しい案をご提示いただいています。今年4月に、それまでの銀座6丁目地区街

づくり協議会を解散して、銀座6丁目地区市街地再開発準備組合を設立し、来年3月の都市計画提案をめざして計画を推進中です。

銀座6丁目計画・全銀座会と銀座通連合会に説明

計画案の概要

9月6日の全銀座会、9月14日の銀座通連合会常務理事会にて、銀座6丁目地区市街地再開発準備組合より、計画案の概要と公共貢献の内容についてご説明がありました。説明に見えたのは、準備組合理事長であるJ.フロントリテイリング(大丸松坂屋百貨店持株会社)の茶村俊一社長、専務理事である森ビルの山本和彦副社長、設計者である建築家の谷口吉生先生ほかのみなさんです。

計画は、6丁目銀座通りから三原通りまでの2街区・13地権者をまとめて再開発し、ひとつの建物にしようとするものです。建築物の高さは56メートル(工作物は別途10メートル)、地上12・地下6階で、商業施設、オフィス、多目的ホール、駐車場等が入る予定です。

2街区の間にある道路(あづま通り延伸部)は三原通り側に付け替えられますが、通りとしての機能は残します。自動車はゆるやかに半地下を通り抜けるようにし、歩行者は従来どおり、地上レベルを24時間通行できます。駐車場と荷捌場の出入り口は、この半地下車路内にもうけられます。

建物内には、銀座通りから三原通りへ抜けられる、売場内貫通通路と、交詢社通りからみゆき通りへ抜けられる売場内貫通通路が整備されます。

三原通り側の区道付け替え部分には「ストリートパーク」という歩行者空間を設けるとともに、バスの乗降所をつくります。近年、銀座通りに観光バスが停車することが問題となっていますが、それを解消するための公共貢献です。バス乗降客の溜りスペースも設けられます。

さらにあづま通り地下に、地下の歩行者ネットワークの充実を目指し、晴海通り地下道と結ぶ地下道が整備されます。これによって、店内、オフィス、バス乗降所の溜りスペースから東京メトロ銀座駅、東銀座駅に地下で連絡ができるようになります。

銀座の期待と要望

6丁目のあづま通り延伸部は現在、ほとんどがデパートの駐車場出入り口として使われています。その通りが商業によって活気づくのは、銀座にとって喜ばしいことです。しかし、約100メートルにおよぶ長さの通りがトンネル状となるため、地上レベルの歩道の安全性や快適性、半地下となる車道が暗い雰囲気にならないような明るさや見通しの良さを確保していただきたいことはもちろん、将来にわたって、銀座の通りとしての機能を残すよう、都市計画的な位置づけをお願いしています。また、街区間道路の活性化が敷地内・建物内だけで完結するような性格のものではなく、5丁目のあづま通りや7丁目、8丁目延伸部のにぎわいにつながるような性格であってほしいものです。

売場内の貫通通路も、街にひらかれた、通り抜けやすい通路となるようお願いしています。これまで銀座に存在しなかったボリュームの大きな建物となります。銀座通りをはじめとして、取り囲む通りに対して大きな壁面を見せることになるので、通りとの親和性や開放感を大切に、威圧感のないようなデザインにさせていただけたらと考えます。また、バス乗降所が周辺地域との交通システム全体のなかに位置づけられ、乗降客によって生み出されるにぎわいが三原通りやその周辺の活性化につながることも期待しています。

準備組合としては、今年度中に地権者ならびに銀座との合意形成をはかり、都市計画提案ができれば、2013年春に解体開始、2017年の竣工をめざしたいとのことです。竣工後は計画地のみならず地域全体の活性化が大いに期待されます。一方で、工事期間中は2街区が工事中となり、商業地・銀座に与える影響は少なくありません。地元としては早急に計画をまとめ、早めに建設会社も確定し、短期間に開発をすすめてもらいたいと望んでいます。